

まえがき

「あなたは自転車に乗れますか？」

9割以上の方の答えは「YES」だと思っています。

それでは、

「あなたは麻雀できますか？」

逆に9割近い人の答えが「NO」。

これが現状です。

ゲームやネット麻雀でやったことがあるレベルならもつと人数は増えるでしょう。

しかし、実際に卓を囲んで牌（パイ）を触って遊んでいる人はまだまだ少数派です。まして麻雀店で遊んだ経験というと更に少なくなります。

「人口の9割が麻雀できたら世の中変わるだろうな！」

大真面目にそんなことを考えながら麻雀店経営に関わって45年、そんな私にお誘いがありました。

「本を書きませんか？」

声をかけてくれたのはこの本の出版社の担当Yさん。

彼との出会いは数年前、当時求人誌の営業担当として私と話したことがありました。そのころの私は自分の会社の人材育成にもっとも注力していたときで、麻雀業界で働く人の社会的ステータスを上げていくことが自分の使命だと思い、教育論のようなことを熱く語っていたように思います。

そのYさんが社内の配置転換で求人から出版部門に移動になり、私のことを思い出して連絡してくれたようです。

以前よりは麻雀業界のイメージは少しくなりましたが、まだまだグレーな業界として色眼鏡で見られることが多いです。子どものころは学校で家の職業を堂々と言えず「父の職業はサービス業です」と答えていました。

異業種交流会などで名刺を渡すとほとんどの人が「麻雀人口が減り大変ですね」と気の毒そうに私の顔を見てください。そのたびに「今に見とけよ」と思いながらもその言葉をエネルギーに変えてこれまでやってきました。

麻雀というゲームは数百年以上の歴史を持ち、時代や地域によつてそれぞれルールが違います。〃競技〃というより〃文化〃として根づいているように思います。私たちが取り扱う商材として見ても〃麻雀〃はものすごく優秀で、機械などのハードは変われどもゲーム性や人の感動は普遍的なものです。スマホの麻雀ゲームも楽しいですが、もつと多くの人に実際の麻雀に触れて楽しんでもらいたいものです。

本書は麻雀の戦術本ではなく、業界に長く身を置く私が業界発展につながるような内容を書くことができれば、同業者の方やこれから麻雀業界で活躍しようとする方のヒントになればと想います。もちろんまったく麻雀を知らない方々にも「こんな人間もいるんだな」ということを知っていただければ幸いです。

「麻雀で世界平和」を目指して。



令和4年 石端 伸次郎